

「LGBTQフレンドリー宣言」を公表 業界に先駆けダイバーシティに取り組む



南海グリーンサポート(株) [大阪市住之江区]

代表取締役社長 小池裕司氏

南海電気鉄道(株)の100%子会社として2005年8月に設立された南海グリーンサポート(株)。

(株)ティア(名古屋市北区、社長富安徳久氏)のFC加盟店として、2023年7月末現在、大阪府および和歌山県内に葬祭会館16か所、葬儀相談サロン1か所を展開する。

その同社が、この6月、葬祭業界の先駆けとして「LGBTQフレンドリー宣言」を行なうと発表した。同社を率いる代表取締役社長小池裕司氏に、その経緯と今後の展開について話を伺った。

大阪・和歌山で16か所の会館展開 年間施行件数は約2,200件を達成

——はじめに、貴社の現状について教えていただけますか。

小池 2005年の設立以来、名古屋市北区に本社を置く(株)ティアのFC加盟店として、現在、大阪府および和歌山県内にティアブランド会館を16か所(大阪市内1か所、府下14か所、和歌山県内1か所)、葬儀相談サロン1か所(堺市)を展開しております。今秋には、富田林市内に「ティア富田林駅前」の開業を予定しておりますので、会館数は17か所になる予定です。

——年間施行件数についてはいかがですか。

小池 20年春から国内に蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響もあり、いつときは施行数もダウンしましたが、段階的なコロナ対策の緩

和などもあり、現在は年間2,200件ほどの葬儀施行をとり行なわせていただいております。

——やはりコロナ禍の影響は大きかった。

小池 はい。大阪府下はかなり早い時期からコロナ禍に見舞われたこともあり、会葬者数減によるダメージは大きかったといえます。また、3年余に及ぶコロナ禍の影響で、多くのお客様が「小規模葬」「一日葬」を望まれるようになりました。現在は、徐々に回復基調にあるものの、以前のような姿に戻るのはむずかしいのではないかと考えています。

——そうしたなかにおいて、貴社は20年にティア堺伏尾を、21年にはティア羽曳野を開業するなど積極的な展開を進めておられました。

小池 当社では、創業以来、“大切な方をなくされた遺族の方に寄り添い、その悲しみや想いを共有して、大切な方の死に対するけじめをつ



小池裕司社長(左)と、アドバイザーに就任した「LGBTQフレンドリーな葬送の実現を目指すプロジェクト」代表石原千晶氏

け、明日から残された方がよりよく生きることを応援する”ことを使命としています。会館展開についても、そうしたニーズにお応えするための出店でありますので、これからも多くの方に「感動葬儀」を提供し続けていきたいと考えています。

会社が描くビジョンと完全一致 業界の先陣切って本格的に取り組む

——この6月、貴社はLGBTQフレンドリー宣言を行なうと発表されました。その経緯についてお聞かせください。

小池 2年ほど前からセクシャルマイノリティの方々に対して、何らかのお手伝いができないものかと考えておりました。そうしたところ、フランチャイザーであるティアから、今後は、葬祭業界においても性の多様性に対し何らかの対応が必要なのは、といったことで意見交換をする機会があったのです。それを機に、漠然と思い描いていたD&I推進への想いが強くなるなか、「LGBTQフレンドリーな葬送の実現を目指すプロジェクト」^{※1}（本部大阪市北区）の代表を務められている石原千晶氏と出会い、今回の運びとなりました。

——貴社からのリリースは、おそらく業界の先駆け

となる取組みとしてインパクトの高い発表でした。

小池 個人的に“先駆けて”という意識をもったことはありません。ただ、業界全体として、遅かれ早かれ性の多様性について真摯に向き合う姿勢を示すことが求められるだろうと思っていました。事実、当社でもこうした方々の葬儀施行をとり行なったことはありますし、他社においてもそれは同じはずです。しかし、当時を振り返ると、喪主様らが本当に望んでいる施行ができたのかといえば、はなはだ疑問です。お互いに何となく遠慮がちになり、モヤモヤとしたものを抱きながら、式が進んでいたのではないかと思うことばかりです。

——双方がコミュニケーション不足を感じながらも淡々と式が進行していたと。

小池 おっしゃるとおりです。近年、各自治体における「パートナーシップ制度^{※2}」の拡大に伴い、ブライダル業界では同性同士であっても挙式ができるサービスを提供する事業者があります。一方、葬祭業界においてはいまだに性の多様性に対する理解はじゅうぶんといえない状況にあるといえます。

——正確に言えば、実際に施行を請け負ったことがあるにも関わらず、ということになります。

小池 しかも、お互いに違和感をもちながら、

※1「LGBTQフレンドリーな葬送の実現を目指すプロジェクト」とは、どんな人も取り残されることのない葬送の実現のために、性的少数者が安心して葬送儀礼を行なえるよう、また、事業者が性的少数者の利用者に対し適切な対応ができ、葬送業界で働く性的少数者が安心して従事できる環境整備を目指す。プロジェクトには、LGBTQ支援団体、弁護士、行政書士、僧侶、牧師、医師、供養コーディネーター、ウェディングプロデューサー等、各業界の第一線で活躍するALLYが参画。2022年8月には、「LGBTQフレンドリーな葬送ガイドブック」をリリースした。詳細については、本誌23年4月号（No.317）でも紹介している

※2「パートナーシップ制度」とは、各自治体が同性同士のカップルを婚姻に相当する関係と認め証明書を発行する制度のこと。2015年11月に東京都渋谷区と世田谷区で施行され、23年6月現在、制度導入自治体は300を超える



「LGBTQフレンドリー宣言」に際し、
ティア堺東（葬儀相談サロン）前で撮
影する同社スタッフ

ですよね。しかし、このままの状況であっていいはずがありません。当社は、“あらゆる人と共感し感動葬儀をクリエイトする”ことをビジョンに掲げておりますので、その信念のもと、性の多様性に配慮したお見送りの提供や職場環境の整備など、多様性を受け入れる土壌づくりを行なうことは必然の流れでもあります。

石原代表は、“セクシャルマイノリティの方々”は現在、日本の人口の約8～10%を占めるのではないかとおっしゃられていましたが、そうであれば、どの組織にも当事者の方がおられる可能性がある。ダイバーシティが叫ばれるなか、企業として、いずれは取り組まなければならない課題であることは確かでしょう。

——とはいえ、唐突にフレンドリー宣言を発せられても、戸惑うスタッフもあるはず。貴社内ではいかがでしたか。

小池 社内では、前向きな取り組みとして受け止める人ばかりでした。葬祭業に従事している時点で、“他人を思いやる心”をもっている人ばかりということもあるのですが、後ろ向きの発言はありませんでした。ただ、受け止め方には個人差があると思いますし、あって当然なのかもしれません。大切なのは、それぞれが抱えている疑問や不安などについて意見交換することですから、今後、大いに前向きな議論をしていきたいと考えています。

フェスタ参加をとおして情報収集 生きた情報元に、フレキシブルな対応を目指す

——フレンドリー宣言を受けて、今後、どのようなロードマップを描かれておられるのでしょうか。

小池 宣言を行なった6月から、サービス内容

及び社内規程の変更について検討を開始しています。また、8月29、30日の2日間で、全社員研修を行ないました。研修には、今回の取り組みを後押ししてくれた石原代表のほか、NPO法人カラフルチェンジラボ（福岡市中央区）代表理事である三浦暢久氏らを講師に迎え、基本的なことを学ばせていただきました。

また、当事者の方からも忌憚のない意見を伺うべく、10月7、8日に開催される「レインボーフェスタ！2023 関西レインボーパレード」にブース出展させていただきます。関西在住のセクシュアルマイノリティの方や地域住民を中心に、全国各地はもちろん、海外からも多くの参加者（2022年度実績2万人）が訪れるイベントですので、さまざまなご意見をお聞かせいただきながら、今後の方針づくりに役立てたいと考えています。

——そうした情報交換の場で、気をつけておきたいことはありますか。

小池 石原代表から、“セクシャルマイノリティ”の方々の支援を行なううえでどのような配慮が必要か”といったような寄り添う姿勢で臨むべきだとアドバイスされました。

——社内研修にはじまり、フェスタへの出展などは、まさにLGBTQの方々を理解するうえで貴重な経験になるのではないのでしょうか。

小池 おっしゃるとおりです。こうした取り組みを行なううえで、最も大切なことは当事者の方々が抱えている悩み事や困り事を知ることからはじまると思います。社内研修をはじめとする一連の活動は、まさにその理解を深める場として有益な時間になりたいと考えています。

——そこで得た有益な意見を今後の活動に反映され



今秋開業予定の「ティア富田林駅前」外観

ていかれると……。

小池 はい。会館展開に反映させることはもちろん、現場スタッフの接客作法や事前相談など、あらゆる場面に反映したいと考えています。特に、これからは事前相談が大切になるのではないかと思います。これまでこちら側（葬儀社）に遠慮して言い出せなかったということがないよう、しっかりとお話をお聞きする姿勢で臨みたいと考えています。小さな取り組みから、試行錯誤を繰り返しつつ、よりよい会館づくりにつなげていく所存です。

——そのほかの取り組みとして、何か掲げておられるものはありますか。

小池 一般社団法人work with Pride（以下、wwP）が策定した「PRIDE指標」というものがあるのですが、その2023年版に応募し、11月の獲得を目指しています。

——PRIDE指標とはどういったものなのでしょうか。

小池 PRIDE指標とは、日本の企業や団体内でセクシャルマイノリティの方々が自分らしく働ける職場づくりを進めるための情報を提供し、各企業が積極的に取り組むきっかけを提供することを目的に、2016年に策定された企業・団体などの取り組みを評価する指標です。ゴールド、シルバー、ブロンズがあり、そのいずれかを獲得したいと考えています。

——まずは多方面から情報収集に努め、それらをもって日々、ブラッシュアップさせながら貴社なりのダイバーシティをつくりあげていかれるということですね。

小池 おっしゃるとおりです。具体的な取り組みもはじめたばかりですし、これからということばかりですが、いずれにしてもセクシャルマイ

ノリティの方々を含む全ての方に安心して葬儀をとり行なっていただく環境を整備することに邁進していきたいと考えています。

葬儀社の使命は、故人様とご遺族様にご納得いただける葬儀を提供することです。そこに、遠慮があってはいけません。そうした環境を整備するには、サービス提供側の意識改革は必須でしょう。

私どもとしても、これからさまざまな積み重ねをしながら、セクシャルマイノリティの方々の不安を解消させるべく取り組んで参りますので、温かく見守っていただければ幸いです。

——期待しております。本日はありがとうございます。

profile



小池裕司（こいけ ゆうじ）
南海グリーンサポート㈱
代表取締役社長

1962（昭和37）年生まれ。
1985年4月に南海電気鉄道に入社し、同社鉄道事業本部運輸第二課、堺東列車区、鉄道事業本部運転課などに勤務。その後管理職として南海フェリー、南海商事などの関連会社に出向。2014年に南海グリーンサポート代表取締役社長に就任。就任時、赤字経営だった同社の業務改善に尽力し17年に黒字転換、現在に至る。

■南海グリーンサポート㈱の概要

【所在地】大阪市住之江区西住之江1-1-41 南海住ノ江ビル2階

【創業】2005年8月1日

【従業員】86人（23年3月現在）

【施設数】葬祭会館16か所、葬儀相談サロン

1か所（23年6月現在）

【施行件数】2,272件（2022年度）

